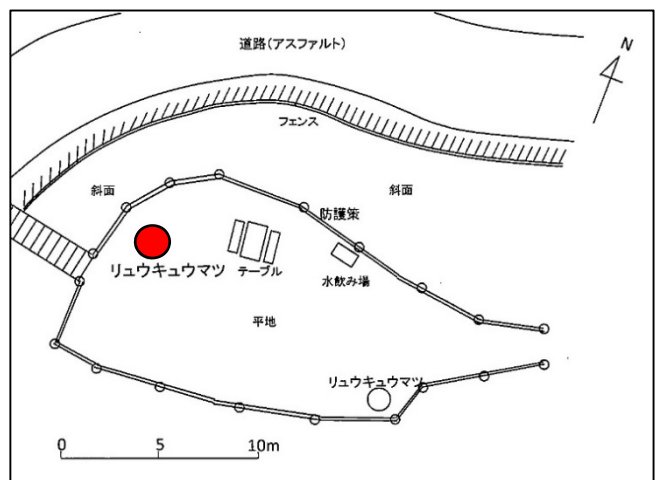


# 辺戸の蔡温松



認定番号 53

樹種名	リュウキュウマツ	科名	マツ科	方言名	マーチ	学名	<i>Pinus luchuensis</i> Mayr			
形状・寸法	樹高 18.0 m	胸高周囲 3.4 m	根本周囲 4.5 m	樹幹占有面積 264 m <sup>2</sup>						
	枝下高 4.8 m	枝張 東 6.6 m 西 9.3 m	南 12.8 m 北 8.0 m	最大樹冠幅 20.8 m						
通称	辺戸の蔡温松		樹齢 150~300年(推定)							
所在地	国頭村字辺戸		所有者	1 国 2 県 ③ 市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明						
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 ⑦ 拝所 8 市街地 9 街路 10 その他 ( )		状況	1 単木 ② 樹叢中 3 樹林中 4 その他						
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 ⑥ その他(保全公園) 7 なし		気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
	① 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 5 道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ( )			平均気温(°C)	14.7	14.1	16.0	20.7	23	26
周囲の状況	① 平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:		地点:奥 年度:2016年 (気象庁HP)	降水量(mm)	336.0	169.5	235	349.0	149.0	223.5
	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )			平均風速(m/s)	3.8	4.4	3.8	4.1	3.7	4
土地傾斜	① 堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )		風向	風向	NW	SE	ESE	SSW	SSW	SW
	基岩・母材			月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地形	① 山地 2 丘陵地 3 台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪地 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他		潮風の影響	平均気温(°C)	27.4	27.1	26	25.2	20.4	17.7
	土性			降水量(mm)	101.0	169.5	297.0	89.5	125.0	50.0
根元及び周囲の植生	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる 2 壤土:砂と粘土が半々 ③ 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない ⑤ シルト質壤土		周辺樹木の影響	平均風速(m/s)	3.7	3.4	4.1	3.8	3.5	4
	根元及び周囲の植生			風向	SE	ESE	ESE	SE	N	ESE
管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③ 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 ③ a 有 b 無 ( 樹幹注入剤施用 ) 6 解説板 a 有 ② 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ a 有 b 無 9 その他		周辺根元の状況	年平均気温	23.6 °C		最高気温 34.1 °C			
	過去の治療歴と内容			年降水量	2280.0 mm		最低気温 5.5 °C			
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 蔡温(1982~1761)は琉球において農業技術の改良や植林を奨励し改革を進めた人物である。 現在、辺戸地区で蔡温松と呼ばれている松群落はその頃に植林されたと思われる。		周辺樹木との関係	1 影響なし ② 僅かに影響を受けている 3 かなり影響を受けている 4 深刻な影響を受けている						
	視認性			1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 ③ a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ ) 3 見学・参観者 ③ a 有 b 無 4 その他 観光スポット						

管理状況	1 柵 a 有 ② 無 (有の場合の高さ m 材質 柵内面積 m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 ② 無 3 剪定 a 強 b 弱 ③ 無 d 枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 ② 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 ③ a 有 b 無 ( 樹幹注入剤施用 ) 6 解説板 a 有 ② 無 7 避雷針 a 有 ② 無 8 定期的な草刈・掃除 ③ a 有 b 無 9 その他
過去の治療歴と内容	
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 蔡温(1982~1761)は琉球において農業技術の改良や植林を奨励し改革を進めた人物である。 現在、辺戸地区で蔡温松と呼ばれている松群落はその頃に植林されたと思われる。
視認性	① 遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )
特記事項	1 動物生息 a 有 ② 無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 ③ a 有 b 無 (有の場合植物の種類 オオイタビ ) 3 見学・参観者 ③ a 有 b 無 4 その他 観光スポット

地上部の衰退度判定（認定番号53）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹きひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 1.64

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

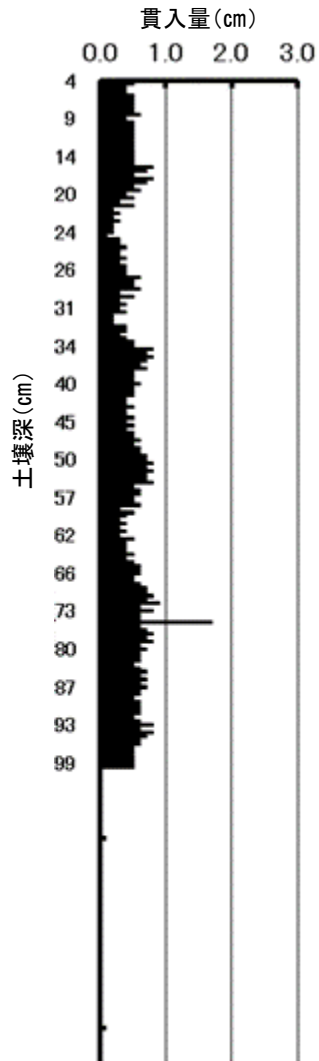
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係	○			
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ		○		
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他( )				

土壤調査結果

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	10YR4/3	0-9	—	シルト質壤土	7.0	5.0
II	10YR4/5	9-18	堅果状	埴壤土		
III	10YR5/5	18-24	堅果状	埴壤土		
IV	10YR5/6	24-	カベ状	埴壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌は礫質黄色土である。</li> <li>・クラッシャーランが敷設されており、表層は固結している。</li> <li>・20cm 以深は粘質でカベ状構造である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹勢の衰退がみられるため、施肥(完熟堆肥)と計画的スポット状の土壌改良の実施を検討する。</li> </ul>
根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地際部にシロアリの被害・根の内部はシロアリにより腐朽が著しい。</li> <li>・東面地上高 8.6、mの枝の脱落痕は空洞化し、シロアリの食害痕が確認できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急なシロアリ駆除の実施を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北西面、西面の根の一部が隣接木(ホルトノキ、タブノキ)が北西面、西面の松の根を覆っており、一部は空洞化した松の地際部から内部に侵入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根に被さっている隣接木の根の切除を検討する。</li> </ul>
幹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随所に蟻道がみられる。</li> <li>・西面の上下方向の窪みの下は空洞化している。シロアリ被害によると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急なシロアリ駆除の実施を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上高 2.5mに電線の巻き込みがみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電線は幹を傷めないように切り詰めることを検討する。自然の巻き込みを待つ。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹皮の活力は中庸である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無し。</li> </ul>
枝	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・小枝の脱落・枯れが目立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シロアリ駆除の緊急な実施を検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葉量が乏しく、2年生葉は殆ど落葉している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥(完熟堆肥)と計画的スポット状の土壌改良の実施を検討する。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シロアリ被害は樹全体に及んでおり、樹体内または根付近に営巣していると考えられる。</li> <li>・着葉が乏しい。</li> </ul>	

